

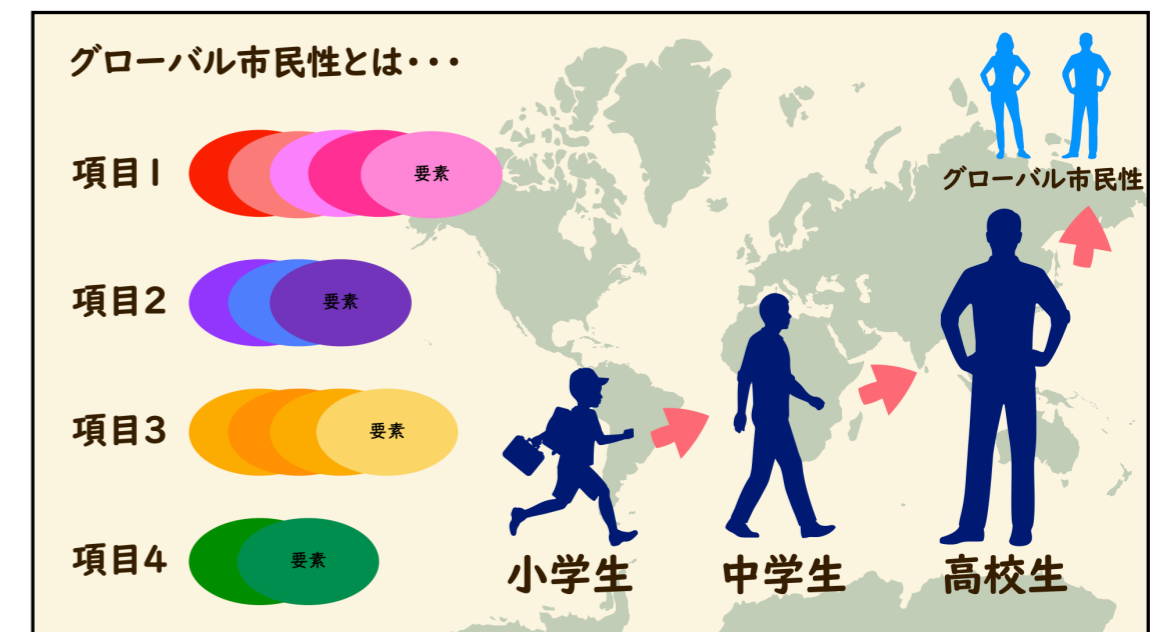
総論提案

1 主題設定の背景

1 主題設定の背景

グローバル社会を協働的に創造する資質・能力の育成

子どもたちが、
池田地区が考える「グローバル市民性」
を身につけることにより、予測困難な時代におけるグローバル社会を多様性を認めながら生き抜いていくことができる。



池田地区（小中高）12年間の教育活動における、発達の段階においての学習目標の設定、評価方法の構築をめざす。さらにそれを教科学習に還元し、池田地区（小中高）が一体となって児童・生徒を育成していく。

2 社会的背景

2 社会的背景

OECD (経済協力開発機構) Education2030プロジェクトにおいて

「VUCAな時代」

Volatility (変動性)

Uncertainty (不確実性)

Complexity (複雑性)

Ambiguity (曖昧性)

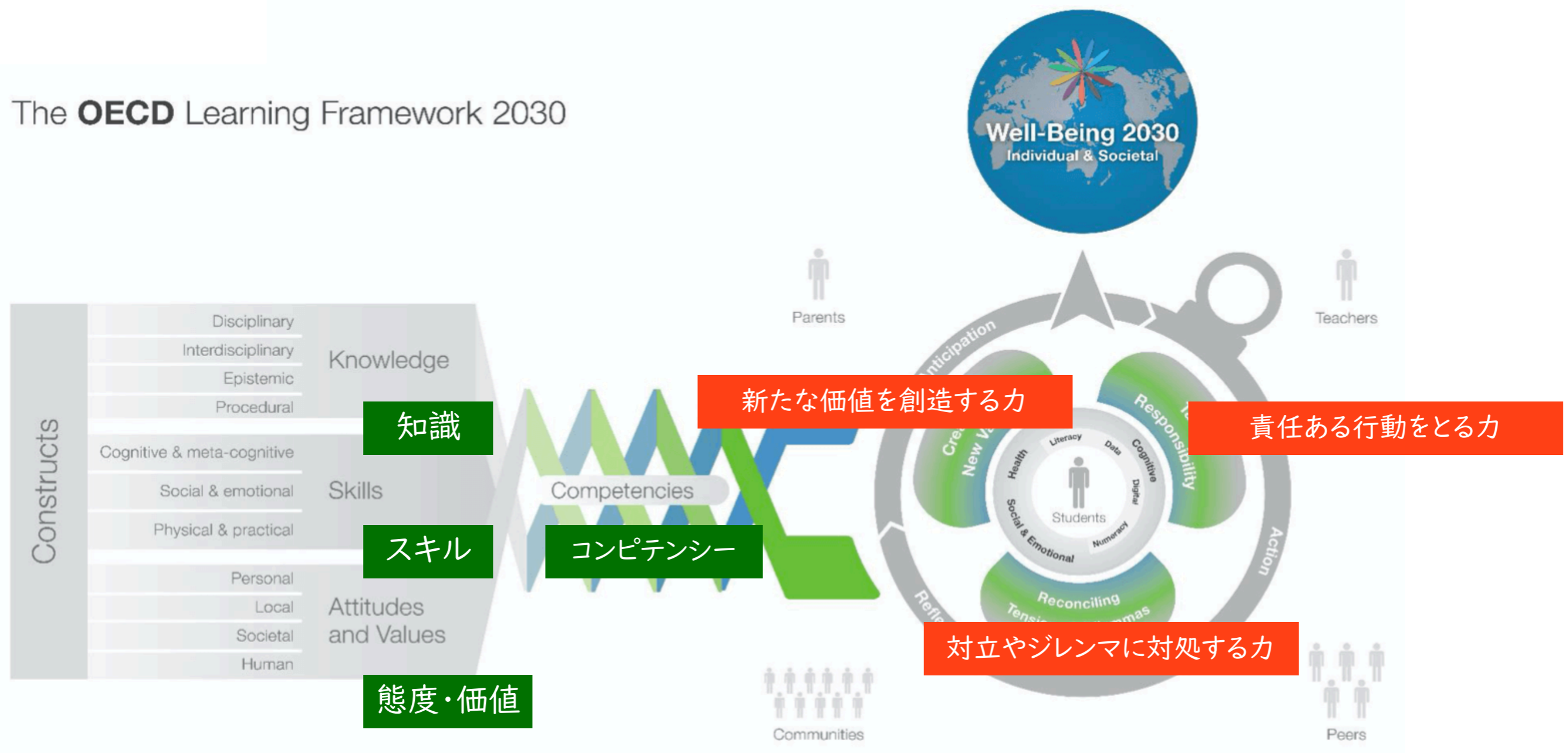


Well-being

2 社会的背景

OECD (経済協力開発機構) Education2030プロジェクトについて

The **OECD** Learning Framework 2030



2 社会的背景

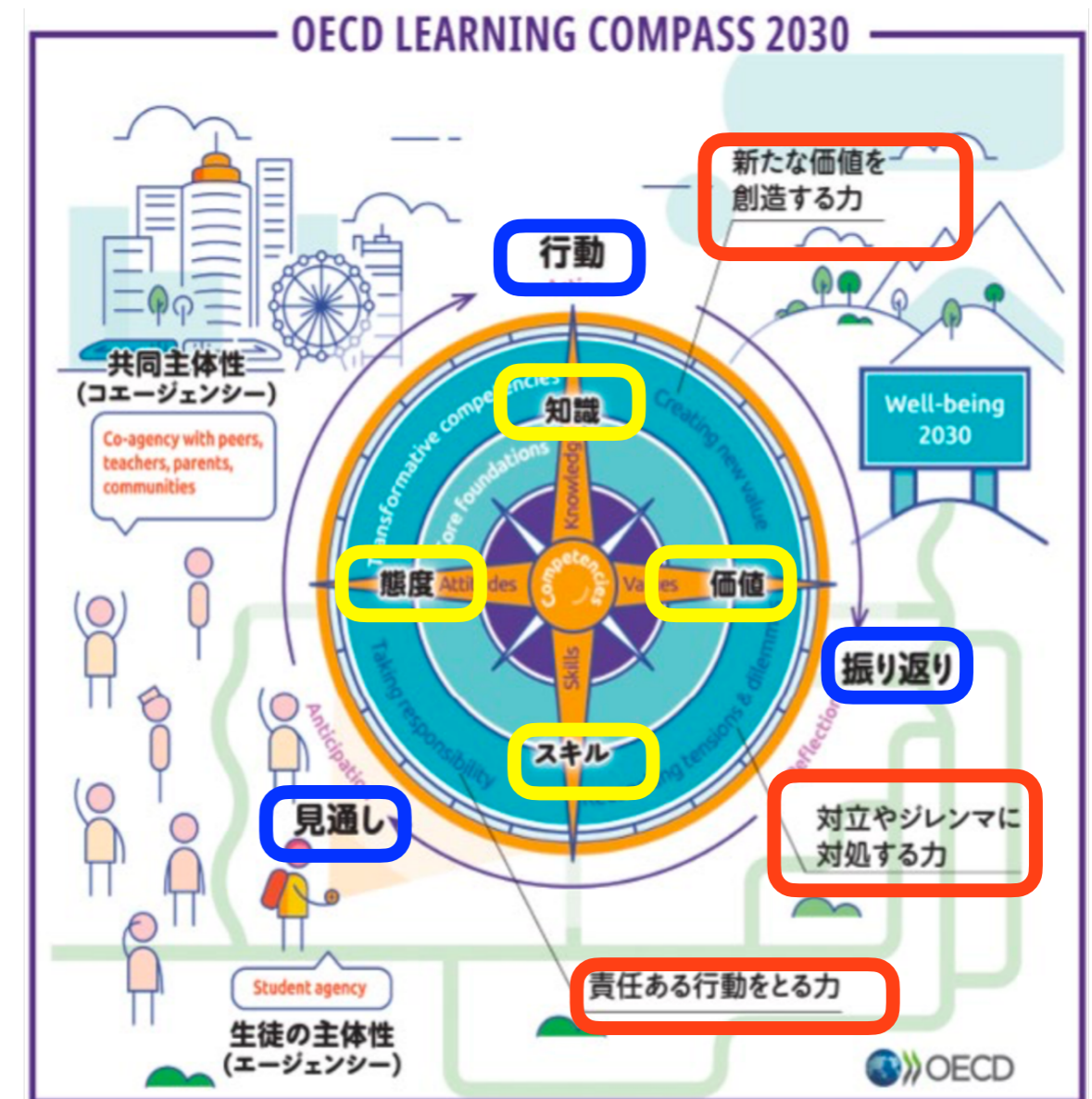
OECD (経済協力開発機構) Education2030プロジェクトについて

「ラーニングコンパス」

知識・スキル・態度・価値

A:Anticipation見通し
A:Action行動
R:Reflection振り返り

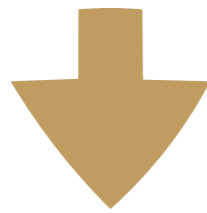
新たな価値を創造する力
責任や行動を取る力
対立やジレンマに対処する力



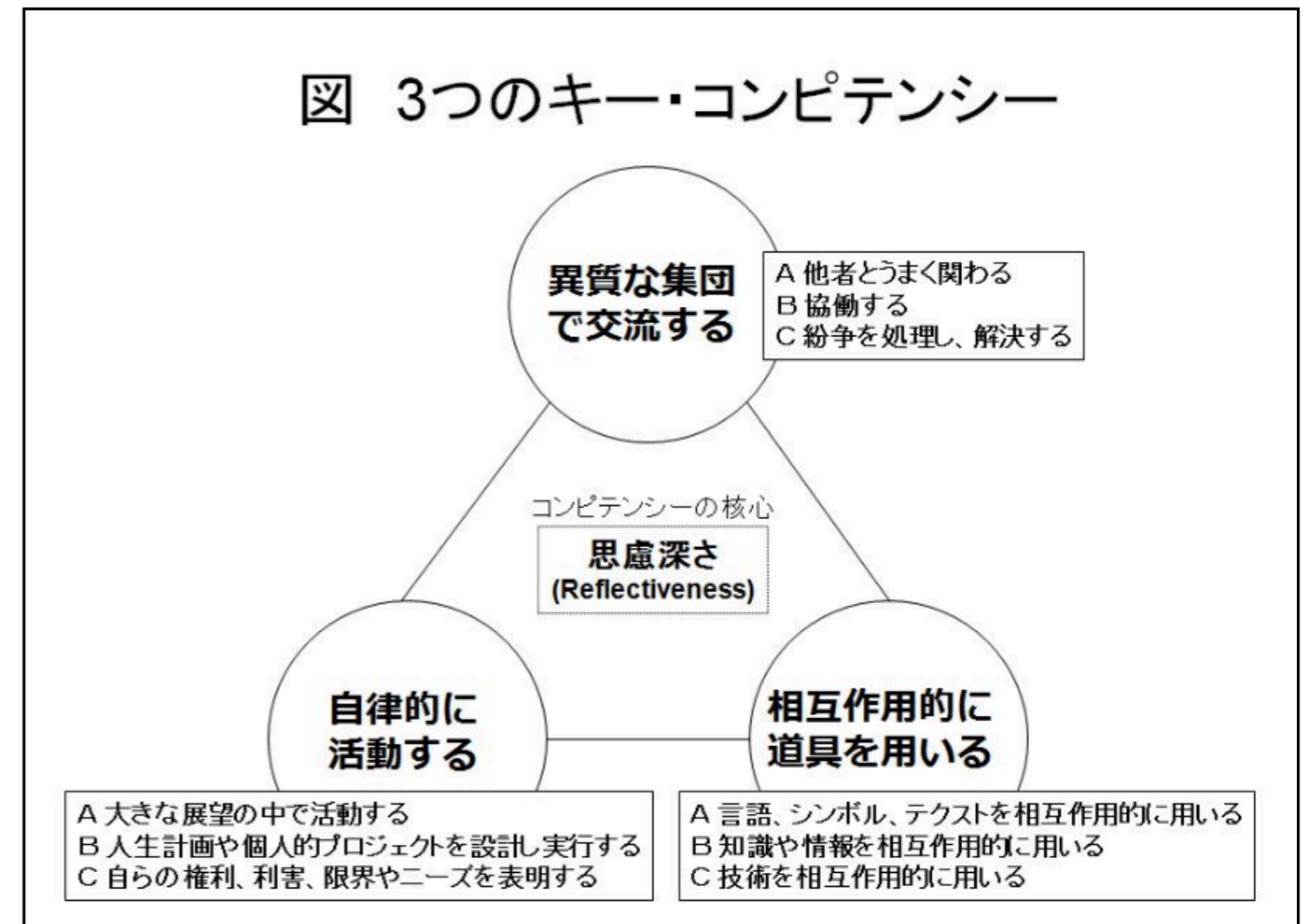
2 社会的背景

OECD (経済協力開発機構) Education2030プロジェクトについて

「エージェント」の発揮に欠かせない、
変革をもたらす「コンピテンシー」



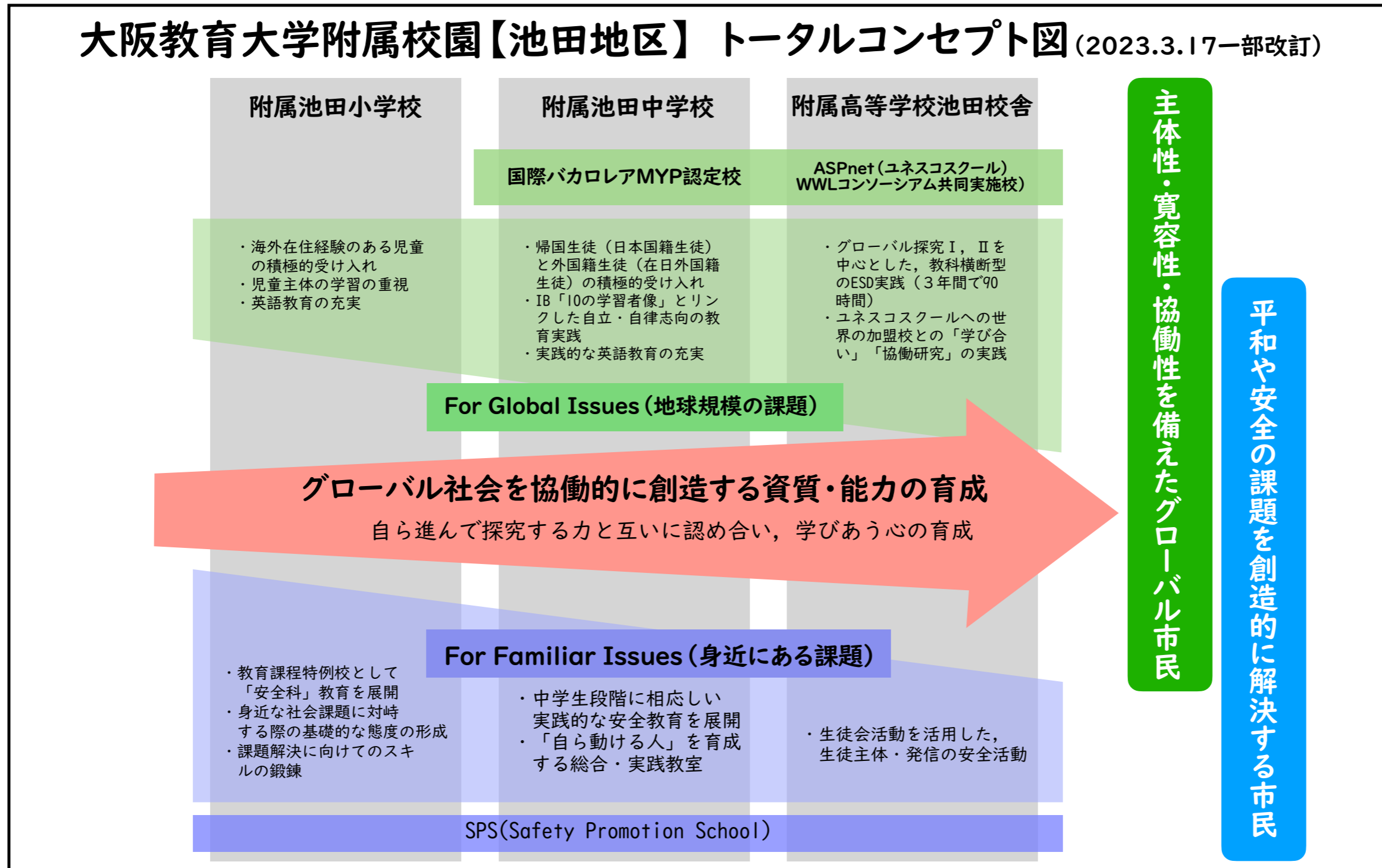
「キー・コンピテンシー」



国立教育政策研究所 「キー・コンピテンシーの生涯学習政策指標としての活用可能性に関する調査研究」より

3 池田地区のトータルコンセプト

3 池田地区トータルコンセプト図



4 研究テーマ

4 研究テーマ

研究の必要性

VUCA時代における資質・能力の育成, 児童・生徒は自分ごととして,
グローバル社会を生き抜いていかなければいけない

各教科の授業, 総合学習, 各種行事, 安全教育, 国際バカロレア,
WWL, 国際枠生徒の受け入れ, グローバル探究etc.

グローバル性を育む重要な学習機会

12年間の発達の実態に則し, 多様性を認めながら, 個々の可能性を
広げる学習目標や評価規準・基準が必要

しかし・・・12年間の発達における学習目標・評価規準の設定が
存在せず, 曖昧になりやすい

4 研究テーマ

共同研究が目指すもの・長期視点

12年間の教育活動における、発達の段階における学習目標の設定、評価方法の構築を目指す。さらにそれを教科学習に還元し、池田地区（小中高）が一体となって児童・生徒を育成していく。

グローバル社会を協働的に創造する資質・能力の育成

グローバル市民性コモン・ループブリックの作成を目指す

【コモン・ループブリック】

校種や学校課題などに即してローカライズできる評価指標

4 研究テーマ

グローバル市民性コモン・ループリックとは

小中高における、生活や各教科の学習、行事などで児童・生徒の「グローバル市民性を育む教育目標」と「評価指標」づくりの基としての活用を目指すもの

発達の段階や校種などを大まかに捉えた基本的な評価指標。
小学生から高校生までを対象とする。
実際の評価にあたっては、校種や行事・学習課題によって、より具体的な子どもの姿で記述する。

4 研究テーマ

【グローバル市民性コモン・ループリック】作成の方法

グローバル市民性とはどういうものかを考え・共有

グローバル市民性が発揮されている子どもの姿を出し合う

子どもの姿を分類

指標分類・項目として整理

項目(横),校種(縦)での指標作成

整理・統合

4 研究テーマ

グローバル社会を協働的に創造する資質・能力の育成

R5 グローバル市民性を定義づけていく

グローバル市民性とは何かを子どもの姿から見出していく
グローバル市民性コモン・ルーズブリックの作成

R6 グローバル市民性コモン・ルーズブリックの作成

グローバル市民性コモン・ルーズブリックの作成

池田地区が12年間かけて育むべき
「グローバル市民性」

R7 グローバル市民性コモン・ルーズブリックの活用

グローバル市民性ルーズブリックを活用し、評価・改善を行う

4 研究テーマ

グローバル社会を協働的に創造する資質・能力の育成

R5 グローバル市民性を定義づけていく

グローバル市民性とは何かを子どもの姿から見出していく
グローバル市民性コモン・ルーブリックの作成

R6 グローバル市民性コモン・ルーブリックを各教科へ落とし込む

グローバル市民性コモン・ルーブリックを各教科，活動にローカライズしていく

R7 グローバル市民性コモン・ルーブリックの評価・改善

グローバル市民性ルーブリックを活用し，評価・改善を行う

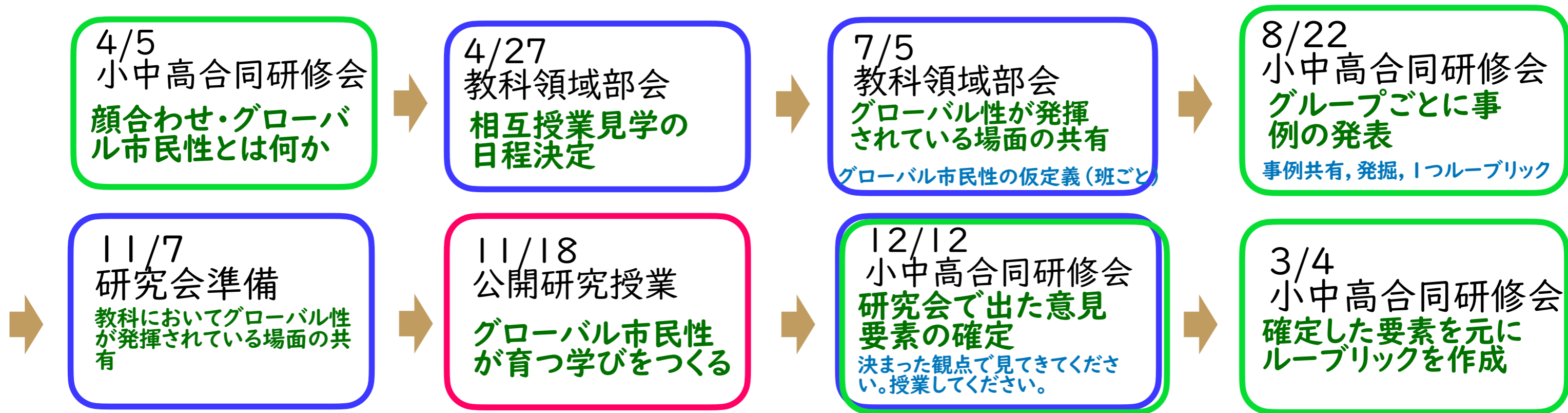
4 研究テーマ

R5 グローバル市民性を定義づけていく

グローバル市民性とは何かを子どもの姿から見出していく

校種，教科を混ぜた9つの班を編成し，1年間共同研究を行う

教科・領域部会年間スケジュール



4 研究テーマ

グローバル市民性とは・・・

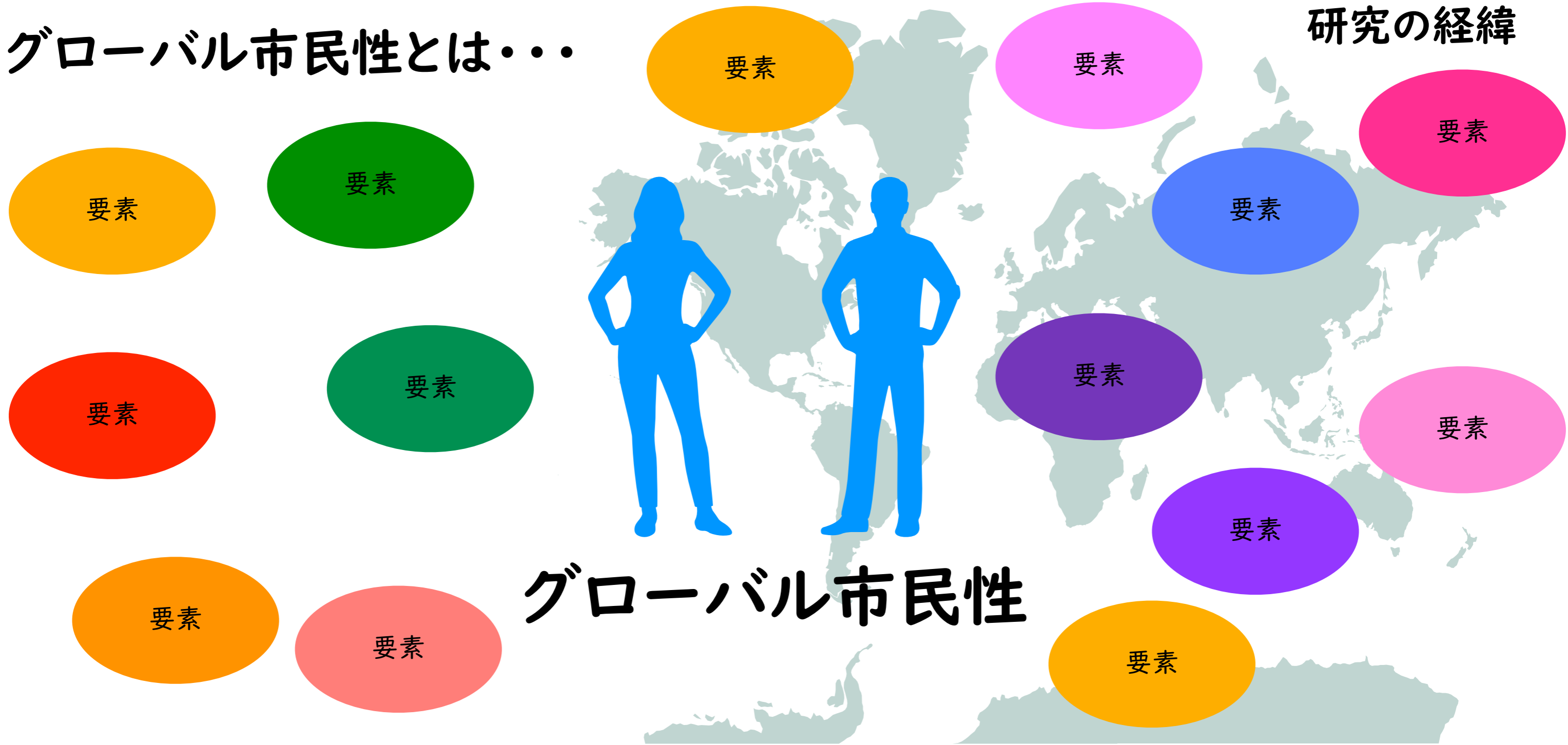
研究の経緯



グローバル市民性

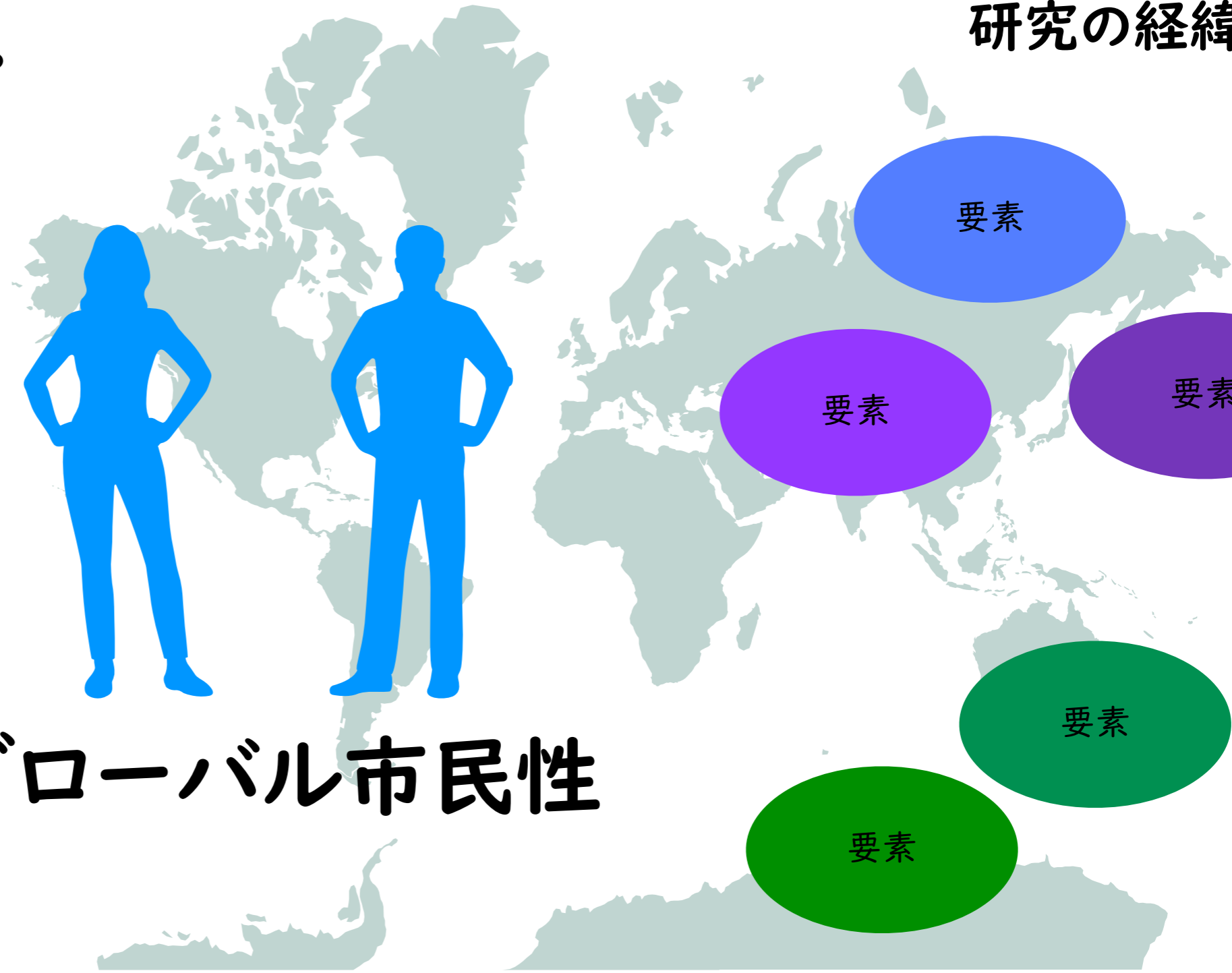
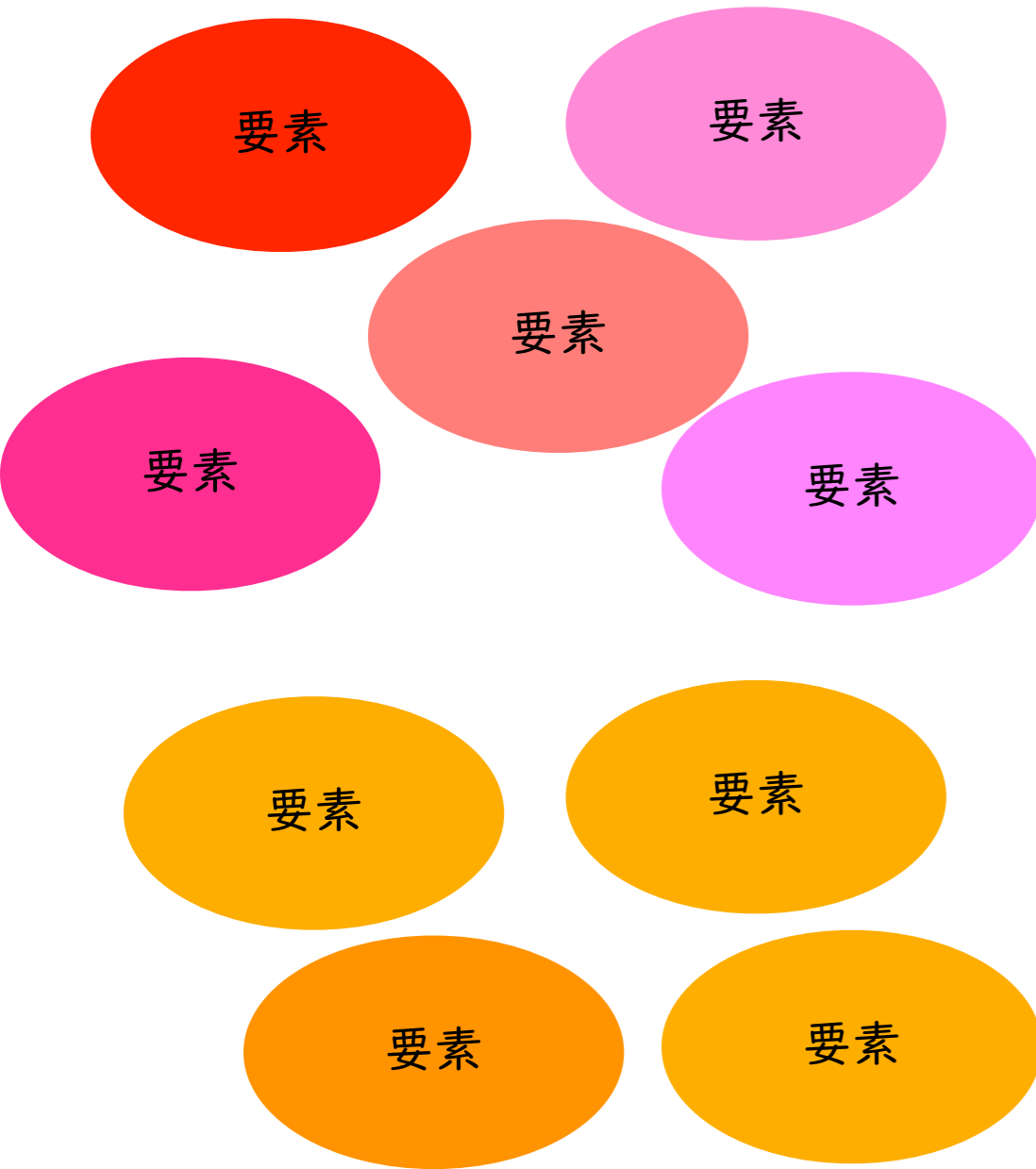
4 研究テーマ

グローバル市民性とは・・・



4 研究テーマ

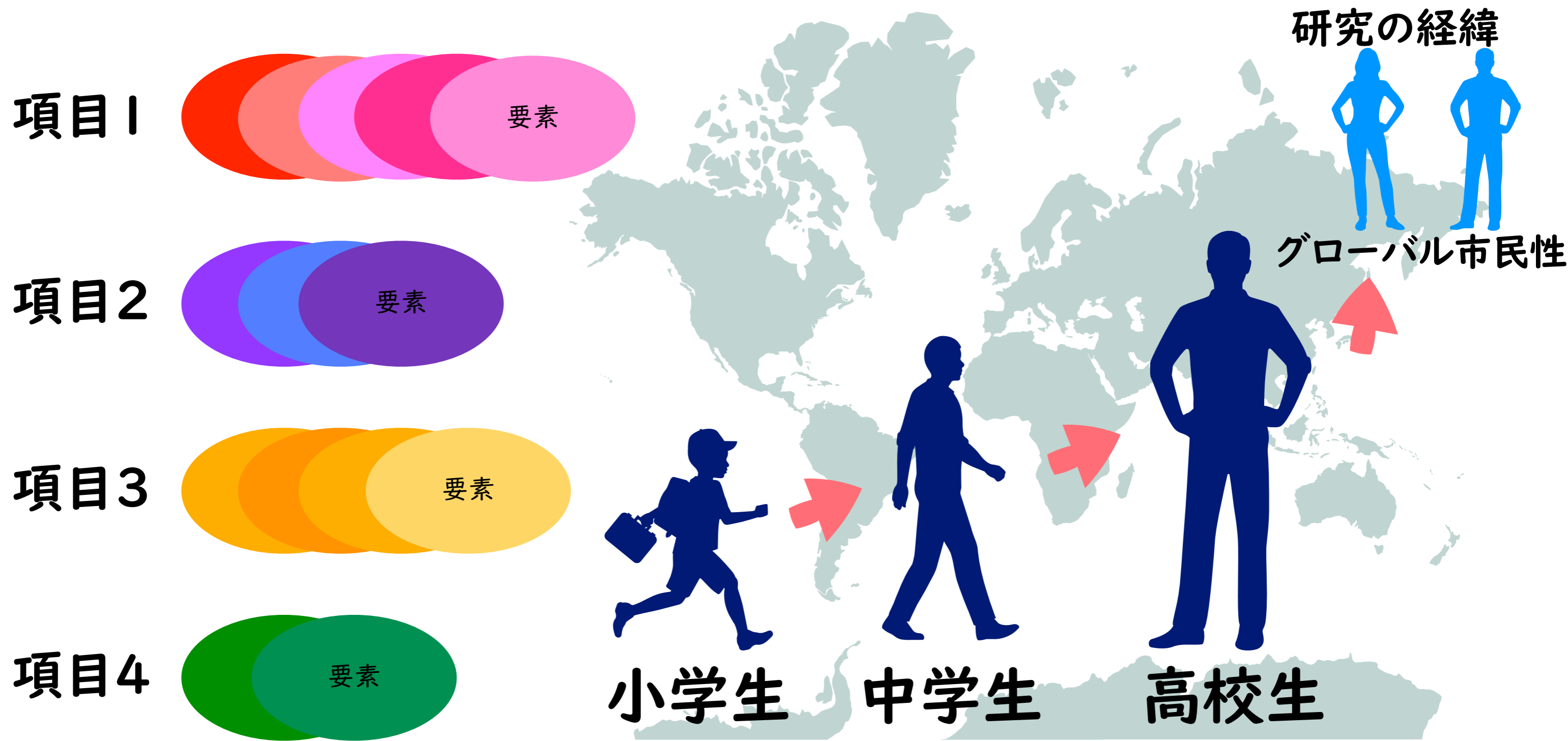
グローバル市民性とは・・・



研究の経緯

グローバル市民性

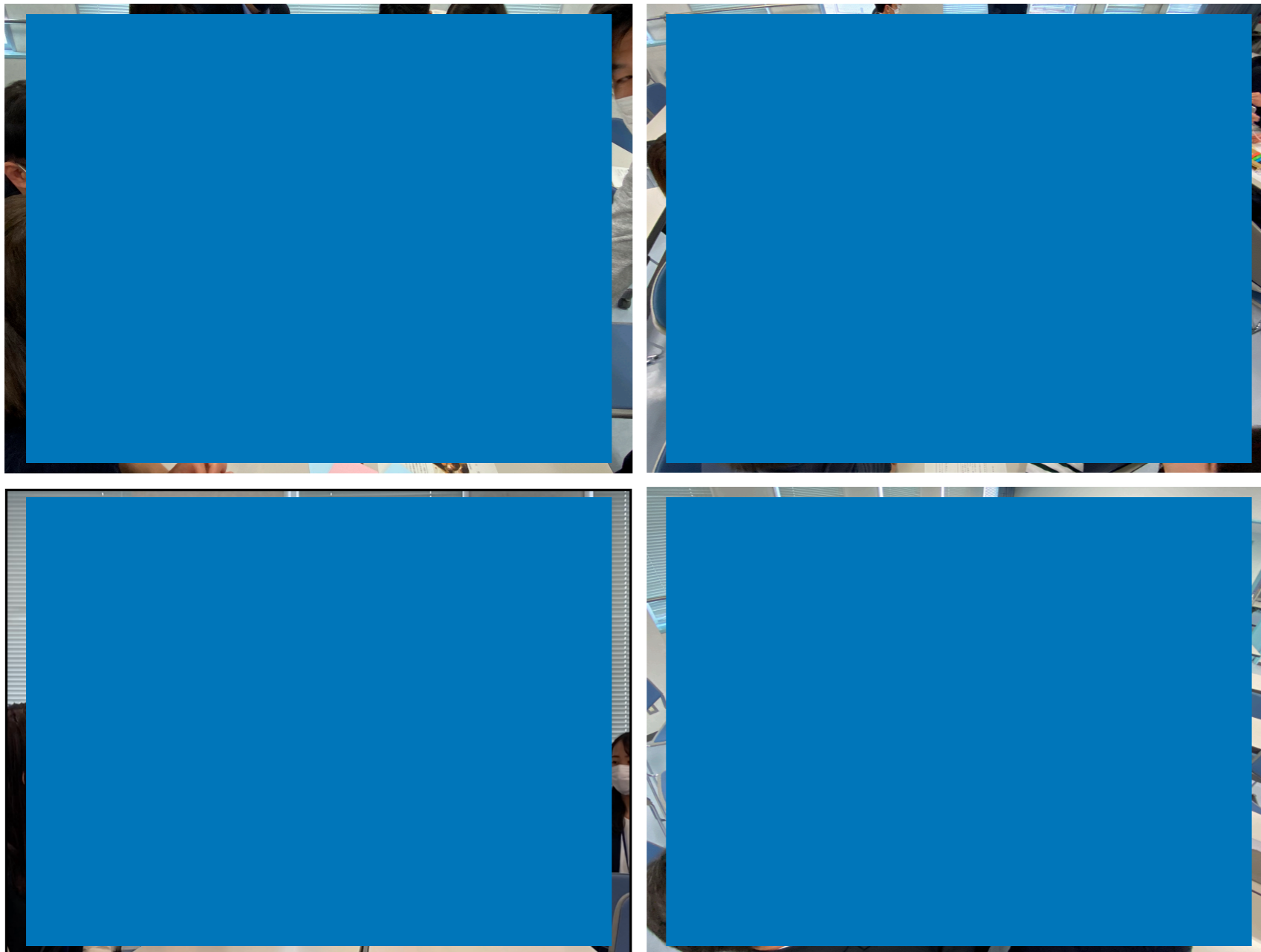
4 研究テーマ



4 研究テーマ

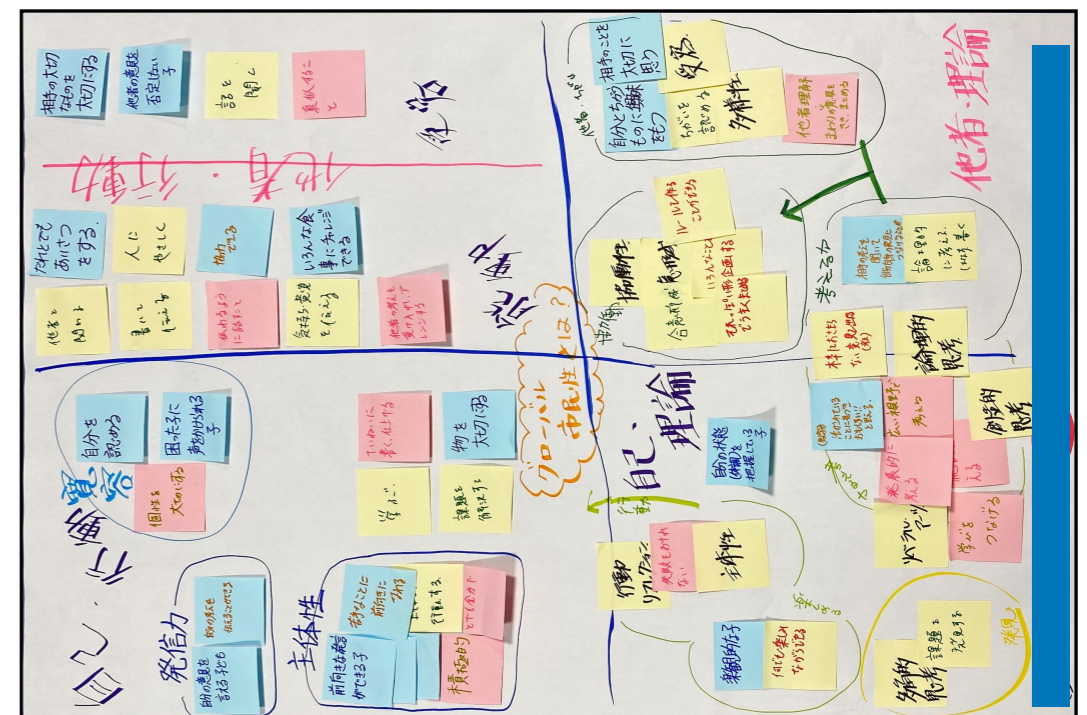
「グローバル市民性とは何かを考える」

研究の経緯



小：すぐに答えを出すことばかりではなく、遠回りできる力
→豊かに遠回りできる力

中：この短時間でこれだけのことができるって、自分たちってグローバル市民力があるんだなと思った。
→自己肯定できる力



4 研究テーマ

相互授業観察を通して「グローバル市民性を子どもの姿から見出す」

①教材が持つ力（特性）
②教師が持つ力（発問）
③学習集団の力（グループワークや発言）

2年 「長さ」

目標 長さをさまざまな任意単位で測りとり、普遍単位の必要性を感じる。

展開

行動面		学習活動	活動上の留意点	思考面	
自己	他者			自己	他者
		<p>1. さまざまな道具を用いて、測り方を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・直接くらべられないとなると… ・何かものを使えばいいんじゃないかな。 ・例えば、消しゴム何個分とか。 ・長いものを使えば一気にはかれるかも。 <p>2. 測った結果を共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私たちがAが消しゴム10個分、Bが9個分でAが長かったよ。 ・え！こっちは、ほうきで測ったけど、印をつけているところを見比べるとBの方が長かったよ。 <p>3. 普遍単位について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・違う方法でしてみただけ、やっぱりほかのグループと結果が違ったよ。 ・正しく測れていないからじゃないかな。 ・しっかりと長さを測ることが大事だね。 	<p>○グループで活動を行うが、それぞれのグループで対象物の長さが違うものを用意する。</p> <p>○ものさしは使わないことを条件とする。また、直接比較はできないことも条件とする。</p> <p>○それぞれの結果がことなることから、どの方法が良さそうなのかを一度模索させる。</p> <p>○出てきた方法で、まだやっていない方法を使って長さを測るようにする。</p> <p>○さまざまな方法で測り取る結果が他のグループと異なることをつかませる。それによって、測り方や測るものによって結果がことなるのではないかと考えさせる。</p> <p>○普遍単位を扱うことによって、しっかりと長さを把握できることを感じさせる。</p>		

記録者名 ()

画像や動画十一言【その瞬間の様子、〇〇性】

7月5日 授業者 () 先生 教科・学年 社会 5年 (記入者 ())

(子供の姿・具体物) (概要)

①自分の実体験をもとに意見が述べられている。
②国産と外国産とを対比することで、意見が多様になってきた。
③意見を述べたひとに対して、食いつくのではなく、聞いた意見に付け加えながら、自分の意見を述べていた。

(コメント)

本物を試食する事で、意見にも説得力が増した。また、外国産だから、偏見だという意見も出ていた。ので生産者の視点でも意見が交わされていて、多面的な話し合いが見られた。

4月 17日 授業者 () 先生 教科・学年 数学(代数) 中3 (記入者 ())

(子供の姿・具体物) (概要)

場面：式の展開の授業内容「花壇の面積を広げる」
花壇の面積を広げる問題を考える。その際、自分のイメージしたことを図を用いて描写する。考えた内容をパターン化して可視化する。人の意見に耳を傾けて、自分とパターンが違う意見が出た場合には、パターンとは何かと考える。文字や数値で表すことにより、事象を比べることができ、数値としてパターンが決まることも考える。数学を用いることにより現実社会の問題解決に近づくという意見があった。
人に伝える中で、ホワイトボードを立てて説明する姿、ペン指してプレゼンする姿、色分けを工夫して描写する姿、人の説明を聞き、自分の考えを伝える姿があった。

観察の姿と伸び代

観察の姿と伸び代

6月 6日 授業者 () 先生 教科・学年 高3・日本史 (記入者 ())

(子供の姿・具体物) (概要)

【7～8世紀の日本は世界とどのように向き合っていたか？】
・当時の世界の動き + 世界三大宗教の状況

①三大宗教のうちの1つの、当時の様子を資料から掴む
個人作業 → グループ活動
②違う宗教を担当したものが集まり、当時の宗教状況を掴む
③グループで1つの宗教に絞り、「教義」「成立過程」「世界的な広がり(地図)」の3観点でまとめる
④相互発表

(コメント)

・まるで文房具のように使われるICT機器 例：資料忘れたスマホで写真をとってそれを共有することで解決 ★小学校教員として正直驚き
・情報を処理する力…表面的・見かけ上は相当高い。その力がこの授業のスタイルを支えている。
問：「こういうスタイルの授業が、情報処理能力を高める」という仮説は指示できるか？
・流通しているデータ量は相当多い→これらのデータから「何」を主体的に見つけていくのか？について、もう少し焦点化されるとより効果的では？
… 小学校でよく使っている言葉で言い換えると、「子どもたちの願い」にそって主体性を持たせた上で、思考していくというストーリーがあるとよいのでは？
・【7～8世紀の日本】には、世界宗教からの影響があったのかどうか？という学習仮説を生徒が自分自身で考えられるにふさわしい、考えたいと思える仮説になるような授業の流れの工夫 → 「考えたいと思える人間」を育てるのがグローバル市民にむけての教育

6月6日 授業者 () 先生 教科・学年 英語(論表IA) 高等学校1年生 (記入者 ())

(子供の姿・具体物) (概要)

「ペアで新出単語の問題を出し合う姿」

「代表者が学級全体に英語で説明、発表する姿」

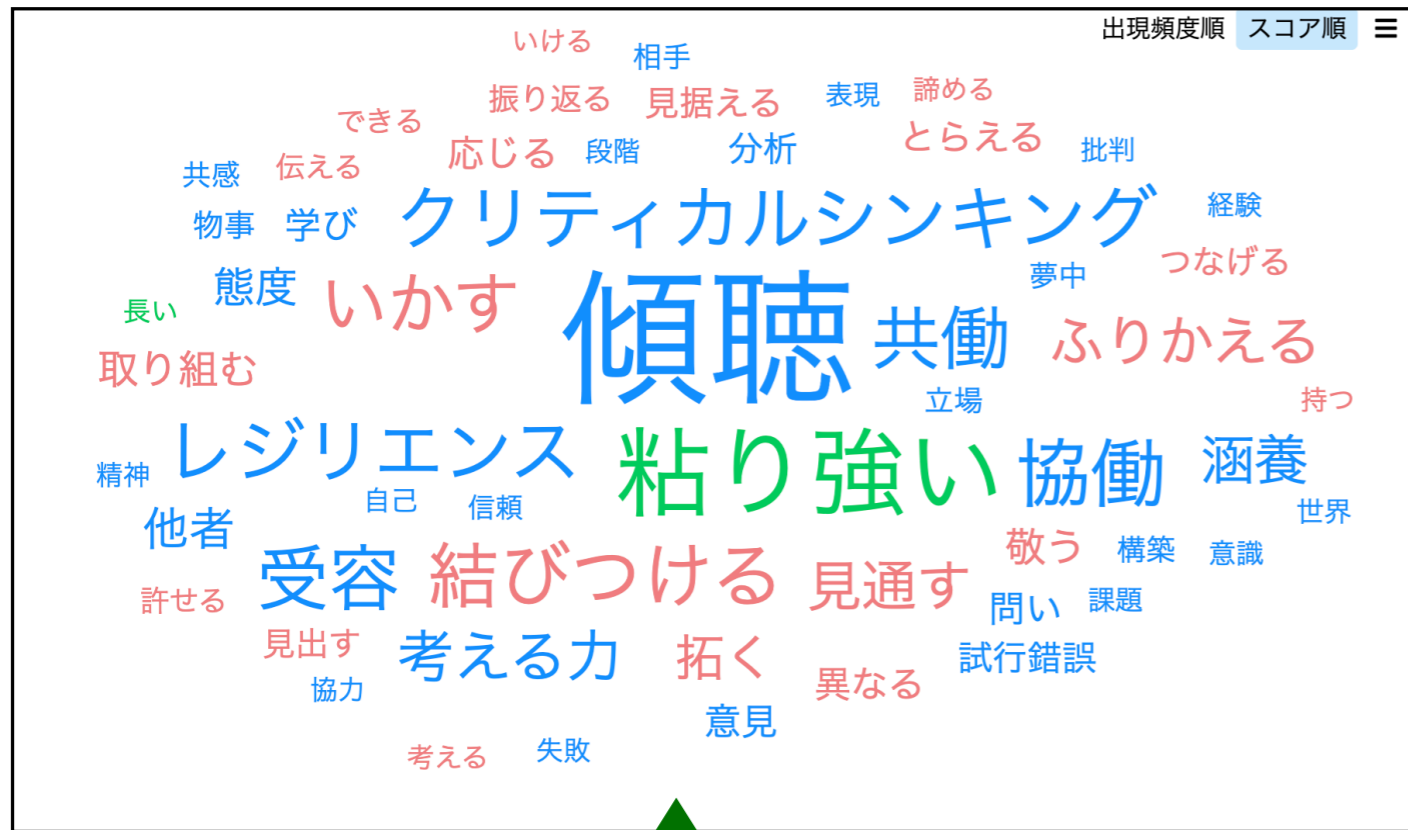
・ペアで新出単語の問題を出し合う。
・ペアで新出単語の問題を出し合う。

・会話文を聴いて、あらすじをペアで共有する。
・何度か英語を聴いて、精読をする。
・ペアで聴き取った英語を説明し合う。
・代表者が学級全体に英語で説明、発表する。
・フェスタアプリを使って、録音した音声を確認する。
① Kahootで学びの確認をする。

・英単語を覚えるために、ペア活動を取り入れることによって意欲的に学習に参加する姿が見られた。
・英語の会話文を聞いて、他者にあらすじを説明する活動においては、メモ用紙を見ることなく、他者意識をもって、発表する姿が見られた。
以上2点の子どもの姿から、グローバル市民性とは、まずは自分自身が主体的に学ぼうとする過程で、他者と協働して、問題を解決する姿であると考えられる。例えば、英文を聞き取って、ペアでその要約を伝え合うという活動では足りない言葉も、問題を解決しようとする姿が見られた。

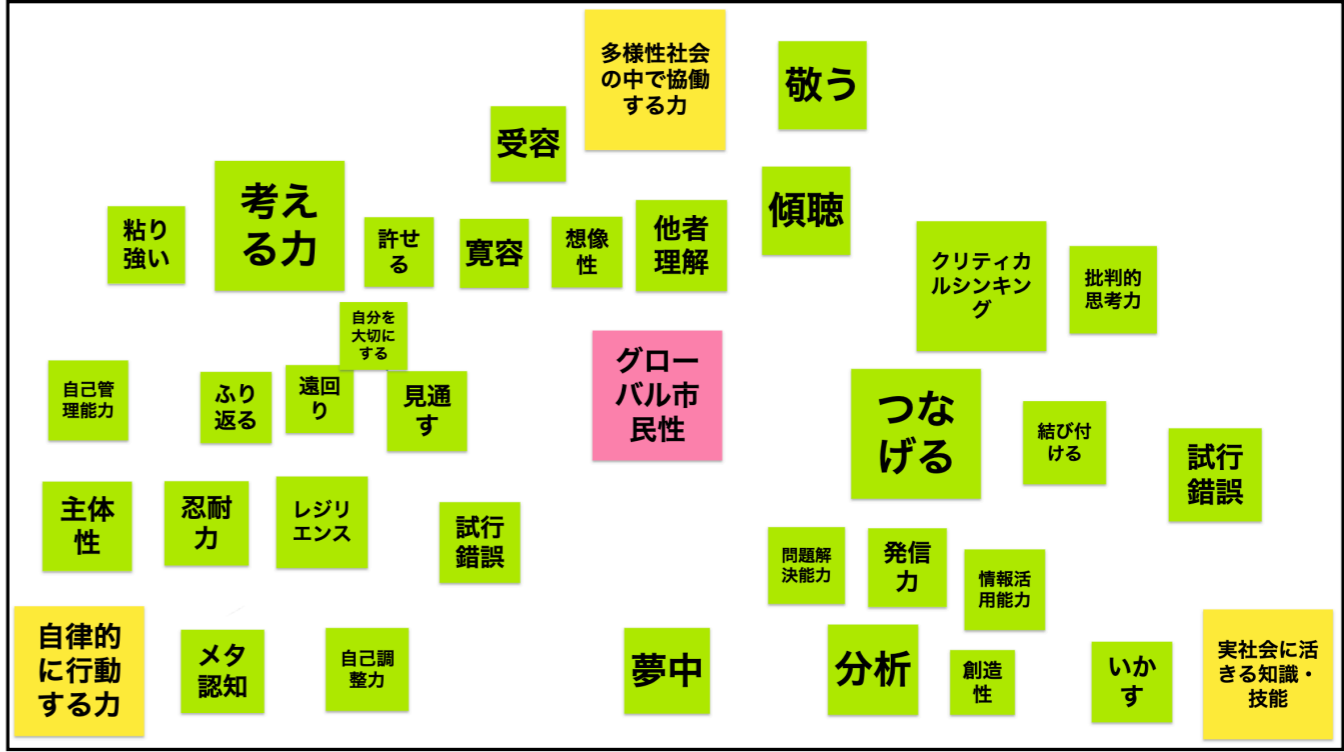
4 研究テーマ

「グローバル市民性」の構成要素（各班からのキーワード）



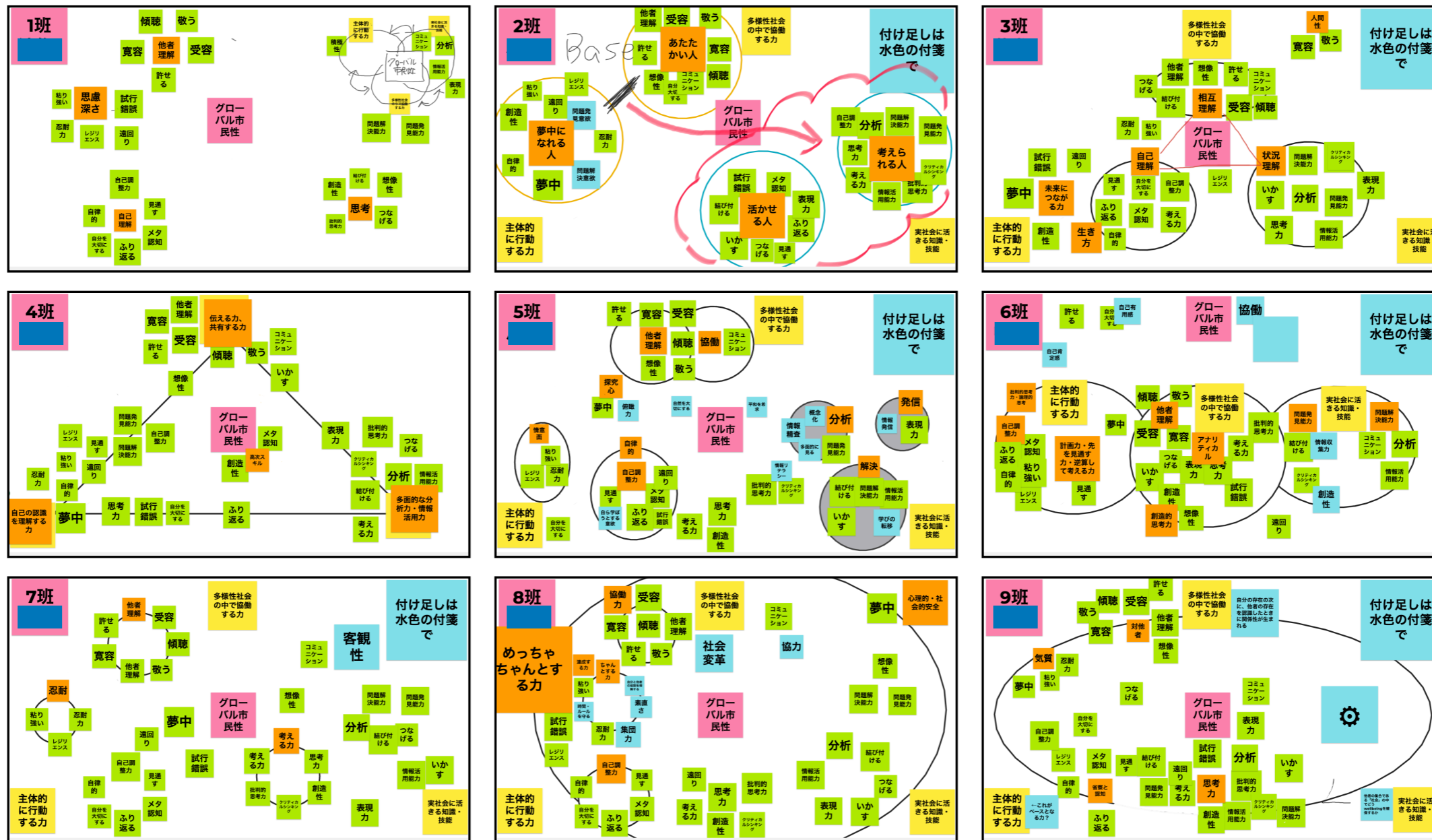
キーワードを整理するための
3つの枠組み

7/5 グループごとに
「グローバル市民性」を仮定義



4 研究テーマ

班ごとの「グローバル市民性の要素」をまとめる



4 研究テーマ

「グローバル市民性」のコモン・ルーブリックの仮作成

班番号	代表者名	項目 (各班1つ選ぶ)	小学校		中学校	高等学校	グローバル市民
			低学年	高学年			
3		状況理解	身の回りのことに関心を持ち、自分の考えを伝えようと他者に働きかけることができる。	置かれている状況に応じて、自分の考えを伝え、他者の考えに耳を傾け、課題解決のために多様な視点からアプローチしようとすることができる。	社会における事象に対して疑問を持ち、自分の考えと他者の考えをもとにその課題の解決において、さまざまな立場に立ち、課題解決方法を分析し、提案することができる。	学習した内容が、社会の中の事象に関与・作用しているかを認識することができる。自身の意見を持ち、他者の意見との共通点・相違点をみつけ、よりよい解決策を導く姿勢をとることができる。	自身が置かれている状況を 多角的に理解・把握し、課題解決に向けて、考えて動き続ける ことができる。また、 自身および相手の考え・普遍的事実・社会的要請などを批判的・総合的に勘案し、解決方法を模索 することができる。
4		伝える力、共有する力	感じたこと、考えたことを伝えることができる。	情報を精査し、自分の意見を持って伝えることができるとともに、他者の意見を傾聴し、理解することができる。	自分の伝えたいことを、エビデンスに基づいて知識を伝えていくことにより、新たな価値観に気付くとともに、個人から家庭、地域、社会へと目線を広げていく。	広い視野を持ち、自分の伝えたいことを正確に、適切な方法で世界に向けて相手に伝わるように発信することができる。情報をもとに判断できる。	社会の中で創造的に、協働的に活動できる人物。持続可能な社会にむけて。国際背景や文化的な背景を基に異なる国、人種であっても協働的に仕事ができる人
5		問題解決力	キャンパス内の環境問題など身近な課題解決能力。 直感的思考力 身近な問題に興味や疑問を持ち、他者に尋ねたり、調べたりすることで解決方法を見つけることができる。	クラスや学年など人と人、人と自然にかかわる課題解決能力。 身近な問題や社会の問題に自ら気づき、自分にできる解決策や社会が向かっていくべき方向について自分なりの考えを持つことができる。	地域社会や日本国内での問題について、課題を発見し、教科等で学んだ知識や情報をもとに、解決策を考え、他者と協働して自分たちのできる解決策を行動に結びつける。	身近な課題と地域、日本、世界の課題とを結びつけ、教科等で学んだことを活かした探究活動を通して、問題解決に向かって行動したり社会に提言したりすることができる。	知識・情報を結びつけて自分をとりまく環境や社会問題の解決に繋げることができる人物。
6		問題解決力	簡単なことから、自分の考えや意見、解答を友達と話をして解決し、自分なりの意見を見出す	社会的な事象を理解(知識・能力)し、私的・公的な面から判断し、表現することができる。また、仲間の意見から考えを再構築できる。	自分の身の回りの課題や、社会の課題について、各教科で学んだ知識をもとに情報を集め、ニーズを捉える。また仲間と協働的に取り組むことで、自分たちに何がができるのかを考え、行動する。	自ら発見した課題に対して、多角的に情報を収集し、それらの情報を鵜呑みすることなく、分析することができる。	社会的な課題について、批判的に思考することによって、情報を多角的に分析する。その上で、より良い解決策を協働的に見出すことができる。
7		他者理解	自分の意見を持ち、友達の意見にも興味を持ちながら、話を聞くことができる。	友だちの話をきちんと聞いた上で、自分の意見を持つとともに、友達の意見を認める。	人を敬い、自己と異なる存在や考えを受容しつつ、傾聴し、協働できる	自分を取り巻く環境との関係性を深く理解し、自身の立場や役割を明確に意識することができる。これは、過去の経験や固有の価値観を土台として、自らの感情や行動を柔軟に調整することができる。このコンピテンシーは、他者の立場や考えを尊重し理解すること(他	

4 研究テーマ



グローバル社会を協働的に創造する資質・能力の育成（1年次）
～グローバル市民性が育つ学びをつくる～

協議の柱 **グローバル市民性が発揮されたかどうか？**
～子どもの学びの姿を通して～

グローバル市民性
(授業者が設定した)

- 発揮されていた**
- ・どのように？
- ・どんな場面？
- ・効果的か？

●**発揮されていない**

- 発揮されていない理由？
- ・教師の関わりや手立て？
 - ・教科の特性
 - ・教科の見方・考え方

●**別の力？**

2023.11.18 大阪教育大学池田地区附属学校研究発表会

国立大学法人 **大阪教育大学**